

プランクトン調査結果のお知らせ

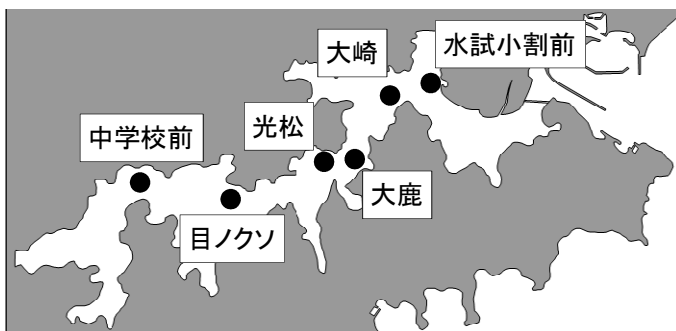
平成25年6月12日午前9時から浦ノ内湾の調査を実施しましたので、結果をお知らせします。

湾内の透明度は1.5～1.9mで、湾全域で着色が見られました。先月から赤潮を形成していた有害種カレニア・ミキモトイは、他種の増殖の影響等で減少傾向にありますが、依然として数百cells/ml確認されています。同じく有害種のヘテロシグマ・アカシオは水試小割等で多く確認され、被害が想定される密度に達しています。今後も慎重な養殖管理をお願いします。

海や養殖魚の状態に変化や不安を感じた時は、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。

	水深	カレニア・ミキモトイ	ヘテロシグマ・アカシオ	シャットネラ属	ディクチオカ・フィビュラ	プロロセントラム・デンタータム
中学校前	0m	25	120	0	2	0
	2m	18	0	3	710	11,200
	5m	126	0	1	11	4,200
目ノクソ	0m	3	0	0	1	1
	2m	270	0	0	28	12,600
	5m	94	0	0	12	1,700
光松	0m	18	3,800	2	24	90
	2m	260	2,500	0	55	9,200
	5m	38	90	0	9	70
大鹿	0m	16	990	0	13	190
	2m	75	680	2	53	7,700
	5m	7	410	0	6	950
大崎	0m	102	6,800	0	25	12,100
	2m	121	3,600	4	28	8,700
	5m	6	90	0	2	7
水試小割前	0m	1	12,700	1	10	22
	2m	1	6,100	0	11	14
	5m	5	730	0	7	90

(cells/ml)



- 漁業被害が想定される細胞密度**
- カレニア・ミキモトイ： 数百～数千cells/ml(へい死)
 - ヘテロシグマ・アカシオ： 10,000～50,000cells/ml(へい死)
 - シャットネラ属： 10～100cells/ml(へい死)
 - ディクチオカ・フィビュラ： 赤潮発生時(へい死)